Osaka University Knowledge Archive

Title	「大阪大学看護学雑誌」についての意識調査報告
Author(s)	中尾, 由紀子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1998, 4(1), p. 47-50
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56754
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

「大阪大学看護学雑誌」についての意識調査報告

はじめに

大阪大学看護学雑誌（以下当雑誌）は、平成7年に創刊号を発刊し、平成10年には第4巻の発刊予定である。当雑誌は、創刊号の巻頭言にもあるように、従来の研究紀要の新しいスタイルであり、保健学科看護学専攻と医学部附属病院看護部の双方から研究論文を募集し、合同で編集、出版を行っている。今回、これらのことを臨床看護婦がどのように感じているか、投稿意欲はどうか等を知る目的で意識調査を行ったので結果を報告する。

調査方法：アンケートによる意識調査
調査期間：平成9年5月21日～同年6月10日
調査対象：大阪大学医学部附属病院看護婦
調査項目：①既読の有無、②当雑誌への感想、③共同で取り組むことへの意見・感想、④今後の投稿希望、⑤その他の意見
調査用紙配布数 497
回収数 373（回収率 75%　有効回答率 100%）

Ⅰ．調査結果

1. 既読の有無

看護学雑誌を読んだことがありますか？	人数　（%）
は　い　（既読）	230人（ 61.7%）
いいえ　（未読）	143人（ 38.3%）
合　　計	373人（100.0%）

未読の理由は、存在すら知らなかったが最も多く74人（51.8%）、次いで機会が無かった8人（5.6%）、時間が無かった7人（4.9%）、興味が無かった5人（3.4%）、無回答49人（34.3%）であった。

2. 内容についての感想

既読者の内、189人（79.4%）から、感想について回答があった。

（　）内は回答数を示す。

・身近なテーマ（自ら働く病院の中での研究や報告など）であり、興味深く参考になる。(33)
・幅広い内容であり、興味深く参考になる。(24)
・かなり高度な内容である。よくまとまっている。(13)
・興味深かった。(13)
・教育との連携希望。(11)
・保健学科看護学専攻の先生方の研究を知る機会となり良い。(10)
・海外体験レポートは大変興味深く、今後も継続希望。(10)
・臨床からのカーテンの調査レポートは、実際にアンケートに回答したので興味深かった。日頃の業務に直結していることから、研究内容を参考に見直したい。(10)
・看護研究の参考になり励みになる。(8)
・院内看護研究との関連。当雑誌へ掲載希望・院内での発表希望等。(7)
・身近な知っている人（保健学科の教官や婦長・副婦長等）が行った研究や報告は、親近感があり興味深い。(6)
・英語は読めない。(5)
・研究成果の臨床への還元希望。(4)
・難しい。(4)
・学生の日常生活調査から保健学科看護学専攻学生への理解が深まる。(4)
・どのようなことが明確になり、どのようなことが注目を集めているか、分かって良い。(3)
・もう少し短い論文希望。(3)
・癌患者の痛みの管理と緩和ケアについて、大学病院であり臨床で直接遭遇することから、興味深い内容である。(3)
・妊婦のドライバーの研究は、初めて目にする新鮮な内容であり、興味深かった。保健指導に生かしたい。(3)
・現状で良い。(2)
・知らないことが多くあり、おもしろく参考になった。(2)
・よくまとまっていて読みやすい。(2)
・職場の先輩ナースの昼夜を問わない一生懸命な研究姿勢を見て素晴らしく感じた。(1)
・講演の和訳が掲載されていて良かった。(1)
・英文も読解できるようになりたい。(1)
・臨床に関するものが少ない。(1)

・総説は興味深く読んだ。感心を引くテーマのものしか読みづらい。(1)
・教育と臨床の研究視点の違いを感じる。(1)
・比較的興味のある内容が多い。ただ新しい発見が少ない。(1)
・少し硬い感じがした。(1)
・興味があるものではなかった。(1)

3. 教育と臨床が取り組むことに対しての感想・意見

253人（67.8%）から、277の回答があった。単に賛成（大変良い・すばらしい・良い等）81（29.3%）、必要と思う9（3.3%）、他は理由づけた記述であり、類似した内容を集約すれば9項目となった。以下9項目について、回答数の多かった順に述べる。（　　）内は回答数を示す。

1）相互（相乗）作用の期待（計86）31.1%
・教育と臨床が共同で取り組むことで、互いの考え方が理解でき、看護の充実につながると思う。(18)
・違う視点から捉えられるので、お互いの刺激になる。(16)
・互いの知識・技術を補完できる。(11)
・共同で取り組むことは大変意義があり、相互作用が大。(10)
・教育と臨床が、それぞれ分かり合えて良い。(9)
・お互いの情報の共有化ができるので望ましい。(7)
・お互いの交流を図るためにも、またレベルアップの為にも継続してほしい。(6)
・臨床に即した内容は興味があり身近に感じる。(4)
・看護は、教育と臨床は切り離せない。(3)
・お互いの意見交換ができ、看護とって何が必要か見えてくる。(1)
・両方から、興味深く読むことができる。(1)

2）臨床への還元・看護の発展への期待（計28）10.1%
・研究の幅が広がり、看護の質向上につながる。(6)
・臨床で日々遭遇する問題や疑問を、教育の力を借りて解決出来れば良い。(4)
・臨床で働く立場では、看護実践に応用（役立つ）できる。(4)
・臨床看護が、学問的に分析されるので良いと思う。(3)
・理想と現実にギャップがあり難しい面があるが、やる気次第で前進できる。(3)
・看護学発展に役立つことを望みたい。(2)
・教育の必要性を大きく感じる。(2)
・本来、看護も医学と同じように、研究―教育―臨床は一環であるべきと思う。(1)
・看護理論が実践の場で検証でき、臨床でのことが研究にとりあげられる。こういうサイクルが有効に働き出している。(1)
・看護教育と臨床との距離が縮まる。(1)
・教育上での事柄が臨床に生かせたら良い。(1)

3）共同研究への希望（計18）6.5%
・それぞれの研究を載せるのも良いが、共同で研究していることがあればもっと良い（8）
・ぜひとも数多くの共同研究を展開してほしい（2）
・共同で、ぜひ一度取り組みたい。(2)
・教育サイドと臨床サイドが同じテーマで取り組むことで、患者にとって真に必要なケアが見いだせる。(2)
・研究をまとめる機会になるので良い。(1)
・教育者ときちんとチームを組んで、1年に1件ぐらいはできると思う。(1)
・共同で取り組むことで、一体化していけることを期待する。(1)
・共同研究がないので、接点が見いだせない。(1)

4）学びのメリット（計18）6.5%
・とても興味深く、多方面から学べて良い。(7)
・学習の機会となる。(7)
・新しい気づきを与えてくれる。(2)
・看護研究の取り組み方など参考になった。(1)
・出来上がったのを見てうれしい（投稿者）。(1)

5）オーバーワークの懸念（計13）4.7%
・業務との両立は苦労が多い。オーバーワークになる。(6)
・時間がかかる。(2)
・業務が最優先であり、支障がないように勤務面で配慮なくして出来ない。(1)
・どちらも重荷にならないように。(1)
・余裕がないので無理。(1)
・調整がむずかしい。(1)
・臨床ナースに負担になるような提案は困る。(1)

6）研究の質向上への期待（計11）3.9%
・足りない部分を補ったりお互い協力することで、より良い（実践に即した質の高い）研究ができる。(11)

7) 研究の指導受講希望（計5）1.8%

・臨床は研究面で遅れているので指導してほしい。(3)
・教官の研究に協力を求められれば協力をしたい。(2)

8) 学生との関連（計4）1.4%

・学生の実態調査などあると、昔を思い出し新鮮な気持ちになった。(2)
・臨床で役立つ教育をすることで、学生もやる気を持って学習に取り組める。ぜひ共同で進めてほしい。(1)
・結果がより実践的な教育につながるのであれば良い。(1)

9) その他 （計4）1.4%

・机上の空論で終わらないから良いのではないか。(2)
・今後も続けてほしい。(1)
・視点や目的が同じなら良いのではないか。(1)

4. 今後の投稿希望について

投稿希望についての状況	人数 (%)
ぜひ投稿したい	4人 (1.1%)
できれば投稿したい	91人 (24.4%)
あまり投稿をしたくない	174人 (46.6%)
投稿しない	63人 (16.9%)
分からない	16人 (4.3%)
その他（投稿できる能力を持ちたい）	1人 (0.3%)
無回答	24人 (6.4%)
合　計	373人 (100.0%)

投稿しないと答えた63人中、理由記入のあった18人の内容について

( ) 内は回答数。

・時間が無い (10)
・興味が無い (4)
・良い演題が無い (3)
・負担が大 (1)

5. その他の意見について

・アピールがもっと必要 (3)
・看護体験、スポットコーナー、コラム等、読みやすく馴染みやすいコーナーの希望 (2)
・個人購入希望 (2)
・歯学部病院との関係を問う (1)
・業績リストが情報収集に役立った (1)
・研究の進め方相談コーナー希望 (1)
・今後、意識して読んでいきたい (2)

Ⅱ. まとめ

1. 既読状況は、約6割の状況であった。
未読の大きな理由は、雑誌そのものを知らなかった。

2. 当雑誌の感想について
主な意見としては、次の①～④に集約される。

① 全体的に身近に感じて興味を持って受け入れられていた。
② 看護研究の参考としていた。
③ 雑誌を通して保健学科看護学専攻の教育・研究・学生等の情報を得ていた。
④ 難しいとしながらも、現状での継続希望があった。

3. 教育サイドと臨床サイドが、共同で取り組むことに対して
全体的に見て、約9割が賛成・必要であった。
内容を見ると

①賛成・必要 90人 (32.6%)
②相互作用効果の期待 86人 (31.0%)
③臨床への還元・看護の発展への期待 28人 (0.1%)
④共同研究への希望 18人 (6.5%)
⑤学びのメリット 18人 (6.5%)
⑥看護研究の質向上への期待 11人 (4.0%)
⑦研究指導の受講希望 5人 (1.8%)

等々があった。

4. 今後の投稿希望について
ぜひしたい4人、できればしたい91人の計95人 (25.5%) に、投稿希望があった。
投稿はしないと明確に否定した人は63人 (16.9%) で、理由として少数の回答であるが、時間が無い10人、興味が無い4人。あまりしたくないは174人 (46.6%) であったが、その理由については今回調査をしていない。

5. その他の意見
アピールの必要性の提言や、読みやすいコーナーの希望等があった。
また、少数ではあるが、個人購入希望や歯学部附属病院看護部との関連を問うものがあった。

Ⅲ. 今後の取り組みに向けて

調査結果から、今後の編集に向けての検討課題を以下にまとめる。

1. 当雑誌のアピール

未読者は40%であり、その理由は当雑誌を知らなかった。今後、積極的に何らかのアピールを行うことが必要である。例えば、院内であれば当面、メールによる発刊案内等。

当雑誌の配布については、第2巻の編集後記にもあるように、保健学科は固より国会図書館、全国国立大学病院、看護系大学・短大、他近県の医療施設であり、院内は各病棟・外来へ1冊ずつ、看護部図書室へ10冊である。病棟への配布については、第3巻から2冊ずつと増やして様子を見ている。

2. 共同研究に向けて

臨床看護婦は、研究を行ったりまとめたりすることに難しいと感じながらも、少数ではあるが保健学科看護学専攻教官との共同研究を希望している。今後何らかの共同研究への取り組みを考えていく必要がある。

3. 編集内容について

現在の内容に加えて、①海外の体験レポートや医療の紹介、②スポットやコラムなどのリラックスコーナー、④研究の進め方、研究相談コーナー等の編集内容希望を考慮する。

4. 個人購入希望について

個人で購読希望があった。2人であったことから、今後希望増加があれば検討を要する。

5. 歯学部との連携の意見

1人の意見ではあったが、患者中心の包括医療を考えるならば、今後の検討課題である。

Ⅳ. おわりに

第3巻の発刊後にこの調査を当院看護婦に行った。今後、発刊を継続していくことで当雑誌への理解を深め、より多くの臨床看護婦による看護研究や投稿等の参加を期待したい。

最後になりましたが、アンケート調査のご協力に深謝致します。

(文責　大阪大学医学部附属病院看護部 中尾由紀子)